

## 安来高校植物図鑑（2021年3月）

### 和名: タネツケバナ（種漬花）

種もみ（お米の種）を水に漬けて苗代の準備を始める頃、一斉に花が咲くので、この名前があります。アブラナ科の植物で、見た目は菜の花に似ています。葉はクレソンを小さくした感じで、若い葉は食用になるそうです。花の横に伸びている、棒状で上を向いているものが果実になります。タネツケバナの場合、この果実が花の高さを大きく越えることはありません。ところが最近、ミチタネツケバナという帰化植物が増えています。ミチタネツケバナは花の大きさがやや小さく、咲いている花よりも果実が高く伸びるので、見分けることができます。安来高校でもミチタネツケバナが咲いているのを見たことがあります。果実は熟すとパチンと弾けて種が飛び散るそうです。



### 和名: ホトケノザ（仏の座）

半円形の葉が向き合い、まるで仏様が座る台座（ハスの花）のようになっている様子が名前の由来です。春の七草の「ほとけのざ」はこの植物ではなく、キク科のコオニタビラコのことです。紛らわしいですね。葉が段々につくので、三階草（サンガイグサ）という別名もあります。このホトケノザは食用にはならないので注意してください。群生する性質があり、安来高校でもあちこちで群れている様子を見ることができます。長さ2cm程度の紅紫色の花が咲きます。花は唇形花と呼ばれ、上唇と下唇があり、下唇には模様が入っています。この模様がハチに蜜の在処を教えています。花を引き抜いて吸うと蜜の味を楽しめるそうです。



### 和名: ヒメオドリコソウ（姫踊子草）

明治の中頃にヨーロッパから日本へ渡来したと言われています。オドリコソウに似ていますが小形なので、名前の最初に「ヒメ」がついてヒメオドリコソウになりました。植物名で「ヒメ」がつくのは、小さくて可愛らしいという意味があります。植物体の上部の葉が、花と同じように紅紫色に染まるので、遠くから見てもその存在がよくわかります。植物全体の大きさや花の形が上記のホトケノザによく似ていることから、この2つはよく間違えられる花どうしとして有名です。ヒメオドリコソウは稀に白い品種が見られると本で紹介されていますが、私は松江市宍道町でそれを見ることがあります。初めて見たときは大変嬉しかったのを覚えています。



### 和名: オオイヌノフグリ（大犬の陰囊）

在来種のイヌノフグリに似ているけれどもかなり大きいのでオオイヌノフグリになりました。早春に青紫色の花が地面に散りばめられたように咲きます。手で触れるとすぐに花が落ちてしまいますが、あえて不安定にすることで虫に花粉が付きやすくなっているそうです。そして何より、可哀想な名前の植物として非常に有名です。名前は果実の形に由来しているそうですが、花が落ちてしまうと個体そのものは小さいので、果実の存在には気付きにくいです。

